

「諦めなかったからこそ」

江田島市立江田島中学校 森岡 きらり

「弱気は最大の敵」「応援されるチームになれ」これは、私たち女子ソフトテニス部顧問の口癖でした。

2年半前、テニスの楽しさに惹かれ、入部しました。最初のうちはとても楽しく部活動に取り組んでいたけど、続けるうちにだんだんと飽きてきて、「面倒くさい」と感じるようになりました。一年生はコートを使っての練習がなかなかできないため、素振りや乱打などの基礎練習が中心になります。秋になるころには入部当初の情熱を失い、周りの仲間たちと文句を言いながら、適当に練習をこなしていました。

そんなやる気のない態度で臨んだ試合は、当然、初戦敗退です。その時は、悔しくも何ともなかったです。他人事のように「うまいなあ、すごいなあ」と思うだけでした。

コロナ禍の影響で練習試合にもほとんど行ったことがありません。私たちは、先生が組んでくださった基礎練習のメニューの大切さに気付かないまま、目標もなく、だらだらとボールを打っていました。

2年生になり、顧問が変わりました。その先生は2つのことをするように言われました。

「カバンと列を揃えなさい。」「地域の人や試合会場の選手たちに挨拶をしなさい。」

私は、技術的なことを言われると思っていたので、びっくりしました。言われてみると、確かにカバンはぐちゃぐちゃで、挨拶も、先輩にしかしていませんでした。これを直して何が変わるのかは分かりませんでした。

練習内容も大きく変わりました。練習試合に片道1時間から2時間かけていろんな学校に行きました。知らない学校の、知らない相手と勝負する。それは、私たちにとってあまりにも新鮮な体験でした。

今までやってきた基礎練習の大切さを実感したのもその時です。打たれたボールを返すのに精一杯で、全然練習通りのボールが打てません。自分よりも弱いと思っていた相手に、試合で一勝もできないことが何度もあり、悔しくて涙が出てしまい、気持ちを整えることができませんでした。その時、自分自身の弱さを思い知りました。

思い通りのプレーができなくて落ち込んでいる私達に先生の言葉が刺さりました。「弱気は、最大の敵じゃ。プライドを持て。」

悔しさを知ってから、練習に取り組む態度は一変しました。キツイ練習に耐えきれず泣いたこともあり、練習に行きたくない日もありました。しかし、私たちはみんなで励まし合いながらこのしんどい練習を諦めず最後までやりきりました。3年生が引退して、私は部長になりました。みんなをまとめることができるのかなという不安でいっぱいでした。私は改めて、強い相手や自分自身の弱い心に「勝ちたい」と思いました。

そして、この夏、目標であった県大会に出場できました。県大会ではいい経験とその場でしか分からない空気感を味わうことができました。諦めなかったからこそ、目標である県大会に出場できたのだと思います。

また、他校の先生と関わるうちに、顧問の先生に最初に言われたことの意味が分かってきました。「いつも明るくて、元気がいいね。」「頑張ってるね。」気がつけば周りの人が応援してくれるようになりました。

最後の夏季大会では、ジュニアからの経験者と試合をしました。結果は2-4で負けてしまいましたが、すごく楽しかったという思いが強かったです。自分が今までできなかったプレーができたからです。

仲間と全力で走りきったこの3年間の部活動は、多くのことを学ぶきっかけになりました。頑張っていれば周りの人が応援してくれるということ。諦めないでいれば結果に表れるということです。

後輩たちにはぜひ、私達が作ってきた伝統をずっと繋いでいってほしい。「弱気は最大の敵」。私はこの言葉を胸に、これからもがんばります。